



秋田県議会議員

やすひと

宇佐見

康人

私事ですが、令和3年9月に第三子の女の子が誕生しました。新しい命を育てていくことの重みを改めて痛感しています。私も3人兄弟の末っ子として両親に育ててもらいました。今になって、よく3人も育ててくれたなと感謝が湧いてきますし、妻の両親にも感謝が絶えません。

子育ては予期しないことの連続であり、身近に頼れる人がいればいいですが、核家族化が進みなかなか簡単なことではなくなってしまったというのが現状ではないでしょうか。

全国に目を向けると、コロナ禍の影響もあり幼児、児童の虐待が増えています。残念ながら、子どもの命を救えなかったケースもあり、心苦しく感じています。

議員になる前から、子育てをしている人たちが、困った時に誰かを頼れる社会、困る前に助けられる社会、何よりも子どもたちが希望を持てる社会を目指さなければいけないと考えていました。そういったことも踏まえ、自民党会派では竹下博英先生を中心とした「**子どもが抱える諸問題の解決に向けた勉強会**」を立ち上げ、幼児、児童虐待はじめ、病児保育の問題、養護施設退所後の支援、里親制度の普及や子育て環境の整備など、秋田県が抱えている問題を解決し、全ての子どもが笑顔で健やかに育っていけるように尽力しています。

話は変わりますが、**令和4年4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられます**。昨日まで子どもとして扱われていた18歳19歳の子たちは同日から大人となります。まだまだ世の中の認知度が低いというのが正直な肌感覚です。成人年齢が引き下げられることで、対象年齢を狙った詐欺や消費者問題も懸念されます。

新成人に該当する人は、しっかりと契約などの知識やルールを学ぶと共に、分からないことや不安なことがある際には、周りの信頼できる大人に相談をしてください。それが、未然にトラブルを避けるための近道でもあります。

さて、秋田県は「差別のない寛容で優しい秋田づくり」を目指し「**秋田県多様性に満ちた社会づくり基本条例**」の制定を目指しています。私も、一昨年より機会があるごとに、一般質問や総括審査の場で同条例案に関しての質問を繰り返してきました。

条例の趣旨には賛同していますし、世の中から一日も早く差別をなくし、県内に限らず、世界中の人権意識が向上し、人類は皆平等であるという認識を持った上で、全ての人が笑顔で暮らせる社会を目指していくというのは私たち政治家の責務の一つであると考えています。

しかし、本条例に禁止規定を設けた際に、互いの権利がバッティングしてしまう可能性があること、逆差別は条例の範囲に含まれるのかなど、解決しておかなければいけない課題が沢山あります。本条例に限らず条例制定にあたっては、抜け道や不備がないかを精査していくことはリスクマネジメント上も必要不可欠であるとも考えています。条例制定に関しては、一人でも多くの方が納得した上で運用されるべきだと考えます。

最後に、秋田県が抱える課題は人口減少、新型コロナはじめ多岐に渡っています。特にこの後の課題としては、新スタジアムの整備や新アリーナの整備もしっかりと議論を深めていかなければいけないことです。冷静にそして客観的な議論ができるよう、世論の啓発なども含めて一議員として頑張ってまいります。

上記以外のことも、何かお気づきの点や、感じること、
思うことがありましたらお気軽にお問合せいただくと幸いです。

9月総括審査質疑事項

- 秋田県多様性に満ちた社会づくり基本条例(仮称)について

決算委員会 総括審査

- 少子化対策と女性活躍について

12月総括審査質疑事項

- 秋田県多様性に満ちた社会づくり基本条例(素案)について
- 新スタジアムの整備について

正しく怖がりましょう!!

未知のウイルスであると言われていた新型コロナウイルスですが、三年目を迎え、様々な知見も増えてきました。現時点において、感染者の動向により一喜一憂する必要はないと考えています。行政も感染拡大防止に全力で取り組んでいますが、私たちも平時から「リスクをどこまで受け入れるか」という認識を持たなければいけないと考えています。

今後、様々な面で新型コロナウイルスと共存していく上ではリスクゼロを目指すのではなく、**可能な限り対策を行なった上でリスクを減らしながら日常を取り戻していくという視点が必要**なのではないでしょうか。また、感染された方やご家族、医療機関やその他の関係者に対して、不確かな情報に基づく誹謗・中傷が散見されます。不安を煽るデマや憶測を断定的に語るなどの誤った情報も出ています。正しく怖がるには、正しい情報に基づく冷静な行動と対応が必要です。1日も早い収束に向けご理解、ご協力をお願いします。

県民と自由民主党会派をつなぐ



2022.02 No.40



県議会議員としての任期も残り約一年となりました。現在は、新型コロナウイルス感染症対策全般を所管する福祉環境委員会の副委員長他、議会運営委員会も務めています。

福祉環境委員会においては、年明けから陽性者が増えている新型コロナウイルス感染症対策についての対策と、これからの対策の両面からのアプローチを行い県民の皆様の安全の確保に務めてまいります。また、新型コロナウイルス感染症のパンデミックも3年目を迎えますが、感染症の対策と同時に経済の対策を行なっていかなければいけませんので、議会からももっと県民の皆様に理解してもらえる提案をしていこうと考えています。感染することは誰にでも起こりうることであり、「正しく怖がる」という視点を持ってもらうかが重要です。ワクチンの接種も3回目が始まりました。5歳以上の接種も可能となるワクチンに関しては利益だけではなく、当然リスクも存在しています。それらも含めて接種者やご家族が納得をした上で、接種体制の整備が進むことを祈っています。憶測に流されることのないよう、そして様々な不安も解消できるよう一議員として尽力してまいります。

引き続き、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

ごあいさつ

自由民主党会派 会長 加藤 鉦一

新しい時代を皆さんとともに ～コロナに打ち克ち前進する秋田へ～

昨年10月、岸田新内閣総理大臣の就任直後に行われました衆議院総選挙におきまして、自民党は県内すべての議席を含む単独過半数を超える261議席を獲得させていただき皆様にご心より感謝申し上げます。

さて、菅前総理が急速にワクチン接種を進めた結果、全国的に新型コロナウイルス感染症の落ち着きが見えて参りましたが、オミクロン株など感染拡大の恐れもあり、感染症防止対策に万全を期して取り組む必要があります。本年は医療提供体制の強化と経済再生を加速させ新しい時代をいかに創り出していくか、まさに正念場の年であります。

本年7月には、参議院議員選挙が執り行われます。コロナ禍をはじめ、人口減少と少子高齢化、激動する国際情勢など様々な課題が山積しておりますが、私たち県議会自民党会派は県選出自民党国会議員とともに、新しい時代の秋田を進めて参りますので、さらなるご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

県民の皆様お一人おひとりととりまして、素晴らしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます。



秋田県議会議員

宇佐見 康人

自由民主党秋田県秋田市第十三支部

〒011-0942 秋田市土崎港東二丁目3-29

電話 018-846-3737 FAX 018-803-4976

Web <http://yasuhi10.com> Mail info@yasuhi10.com



発行／令和4年2月25日

ご質問、ご意見をお聞かせください。

編集／秋田県議会自由民主党会派 政務調査会
〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号〔県議会内〕